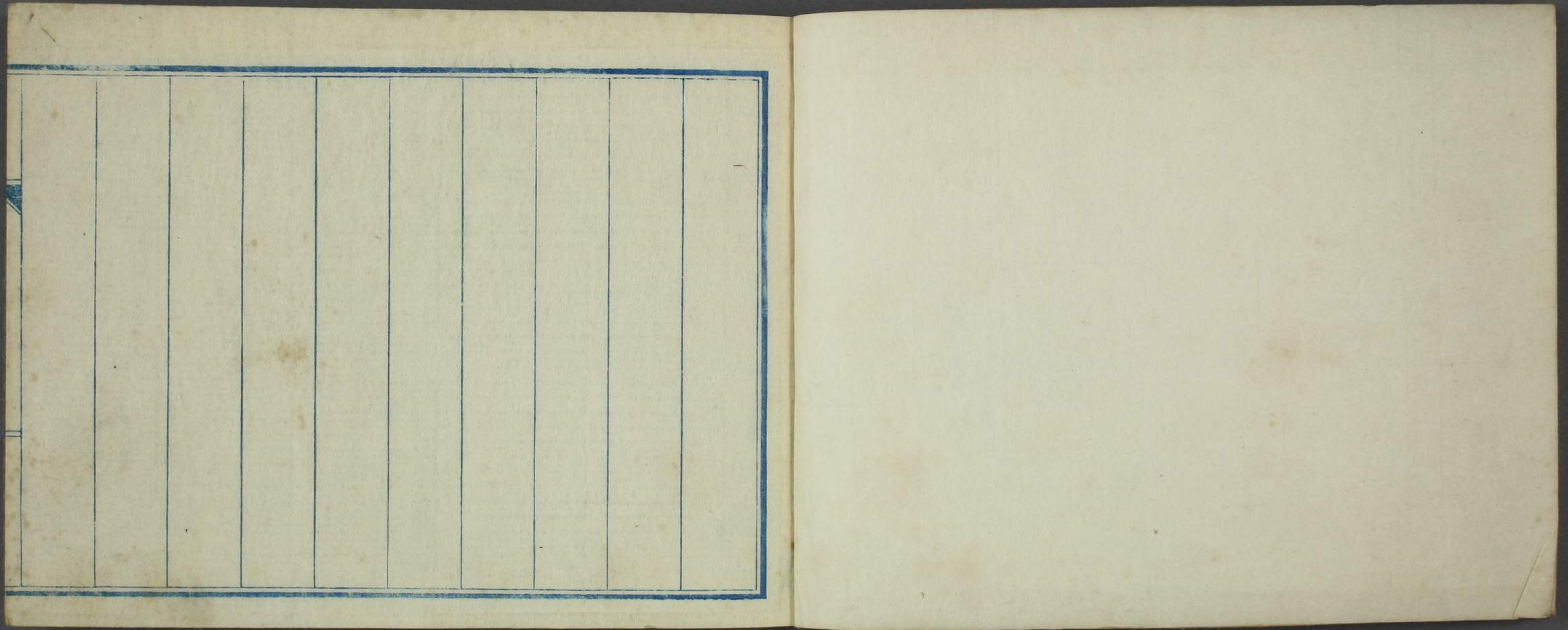


特別  
14  
2090  
(49)









辭彙

一醮不改

再醮

訣云一與之醮、終身不改

婚娶有醮禮、父醮子而迎其

妻、妻于歸而行合卺、皆

醮也、皆但酌而無酬者也、

夜作

上列之事

東阿王七步詩

東阿即陳思王曹植  
旧封

煮豆持作羹、漉豉以為汁、







夷射姑旋ハ否ハ  
射姑ハ邦大夫、  
國有死心射姑

箕踞

謂伸兩脚而坐、其形似箕

故曰箕踞

讀書百遍、而義自見二

三餘

讀書皆以三餘

冬者歲之餘、夜者日之餘、

陰雨者時之餘

以上魏、董遇之法

閨房之內、夫婦之私、有過於

畫眉者上

前漢、張敞為婦畫眉、時人

之レ譏ル、宣帝召レテ之レ問フ、

對曰臣聞一、一、一、

天府

師古云、府聚也、萬物所聚、

扼天下之亢、而拊其背也、

張晏云、亢、喉嚨也、拊、擊也、

弄臣

オモキヤノ臣、コレ戲ト  
弄手



清風朗月、恨<sup>ク</sup>無<sup>ク</sup>玄度

晉ノ劉愨夜簡文 丞相ノ座ニ在

リ欸然トノ歎シテ曰ク | | | | | 玄

度、高士許詢也。

孺子可教

孺ハ幼也、黃石公ノ張良ニ流ケル

ハ流ニ

運籌帷幄中、決勝千里外、

子房功也

漢ノ高祖張良ヲ呼スル流

篇什最富

詩十トノ多作ニ謂フ

罕儷

比儷四十ナリ 前古罕儷十ト

謂フ

忠誠寒言諤

黨援

以黨援干進

坎壈顛躓

綽有餘裕



溫厚和平

不失乎溫厚和平之意

雄渾蒼勁

杜甫之雄渾蒼勁

流麗安詳

白居易詩評

面貌 神味

不能表其面貌、而得其神味

反唇

自今ノ子ヲ稱ニ上ケテ人ノ性ヲ

謂フトキナトニ用フ

牧ノ詩乃纖艷淫靡之尤者

也、而反唇以此警居易乎

奇警 坦易

韓孟尚奇警、務言人所

不敢言、元白尚坦易、務言

人所共欲言

觸景生情、因事起意

更進一籌

規戒之詞



剛明果斷

是詩情辭剴切、忠愛

諧然

鋪敘暢達

含蓄 韞藉

嬌癡

或問少女盡信誓曰ダッテ  
知ラナイ人ヲスモノ、此即是嬌癡

白話： 嬌癡二八初

淺易 丁サハカ

或謂樂天淺易、豈其然乎

かいよぶく

其妻かうげのかいよぶく

物のちよえとれど、かいよぶかひ

しやうぶくへくや 尚不為

みいらす

お七ひ知らすと同意子や

わつとて

尻あつて、蛇々鎌首とあつて

ふと別初やう子用わとらるる見や

抜ぐの意あしへ

まんまと



きんま  
きんまとはたかしのと申す  
きんま

を首尾よくの事あるし

あやふく

あやふく思ふこと

それしや

それらしき女

それかと思へばそれのわらふを

ふどられし供あるまよふ面

白くし

いとさくや

いとしほや

○拙き運

謙も身世拙と云へり

思ひ合ふこと縁に拙くとつけ

ことし見ゆ

○擗一肚皮孤憤

○嘍囉囉 多言也

の長耳公 驢也

○表々 彰著ノ貌

表々在人耳目間



○抵掌而談

抵掌而談天下之事

抵の音はテイにあらずとシ

たふかし抵をシとすれば抵

に同じ輕手也

易云遯世無悶

子思曰君子無入而不

自得

海濶天空

世界從來逼狹、惟以大

量一勝之、即處斗定

中、自具海濶天空境

界、便是君子坦蕩々

的道理

釘釘

本來は殺を陳ぬることかれ

かき替へて文詞の因縁を案

積子の子張

千古不白之冤

捉影捕風



鈎深剔隱

鈎は鈎に合じ。音コウ也

潛伏せる義理事情を究

む義

聲價

増其聲價

評判也名譽也

被<sub>二</sub>我一眼觀破<sub>一</sub>

嘗思後世文字除韓愈

八大家外別有妙理、

被<sub>二</sub>我一眼觀破、遂覺

下筆不讓古人

屋上架屋

餘計也也蛇足也

半點干涉

與此題無半點干涉

此中情緒、亦非筆墨可

盡

舌端幻化、風生雲湧、不

可遏止



快辯の形容

蒼勁樸直、文氣絶類西漢

ジンコ

塵籠

紙 机辺子室くわさき紙屑







以下全て

白紙



